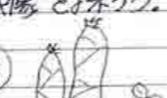


# 2020 森劇スタディ 5月の会 資料

・2020.5.28(木)  
10:00~12:00  
(資料作:長野)

## 資料1

### 今日の内容

- ① 今... 今から... 地域での生活に必要で気持ちよさそうに「市民像」を探ろう。
- ② 2020年 年間活動計画について
- ③ ところどころで「マインドフルネスリラクゼーション体操」って何かな? 

### まず、寄り合い相談の前に、共有しておきたい事項諸君

#### [1] 活動の基盤的なこと

森の劇場プロジェクトという活動は、その誕生のいきさつや成長の過程が特殊です。  
官民協働(津市政策ビジョンから)というスタート。委託事業という継続。  
今回、当然あるはずと認識していた事業がなくなり、それは不運なのか? 幸運なのか?  
いろいろと 初めに知らざるを得ないことは 多分 残念と感じます。

独自の道筋を再確認するとき。

#### [2] 活動拠点としてきた白山総文について

<2016年4月 事業計画プリントから>

白山総文は、社会包摂型劇場を目指します。  
すべての人を包みこみ、これまでの機能に加え

学校	新しいことを学ぶ、共有する場	といた機能も
馬車	人生の方向性を考える場	必要に応じて
病院	互いに助け合い元気になる場	(行政) 環境整備(エコ田舎) 見ると
神社・寺	癒し、(振り廻り)の場	(市民) 人が人に接することであらう
家	居場所	あ、行政のこの役割は、よくわかんない。簡単には見えてこない。

役割

- ・経済中心から生活中心の社会に変えていく仕掛けとなる空間
- ・経済的に豊かな人(ケリ)から、生きるための「意欲」の「人ケリ」。

今年、芸術祭開催のまつり場として  
次年度以降のことを考えていきたい。

#### [3] 芸術祭について

<2016年6月 ミニ-サーク 資料より>

もう一度 原点にもとって開催

今可能で必要は 芸術祭

子どもを中心とした総合舞台芸術を創る意義  
人間独自の能力(そのうち力)を運用・発揮できる。

- 自分を見つめる場: 知らない人に出会い、意見を聞き、自分の思いを確認。実感・感情・表現・勇気に出会う。
- 好奇心を満たす、高揚と月宿り、納得する体験の場: そのための身なりや学び、考え、工夫を繰り返してよくあつていくことも、全身で知る経過時間がある。
- 協力し合う、息が合う、他人のためにやるよこひの場: 共鳴、共振する感動。自分の役割を果たすことが人の役に立つという実感を経験する。
- 子どもにとっては、身体(ケリ)の場... 多くのことを体験・実感する場 (タレトサ感なし)
- 大人にとっては考える場... あつた、気がいい、新鮮な発見、新しい学び、思い出し一緒に苦しむための考えつづける場。

### 《令和2年5月の森劇スタディ報告》

2020年 5月 28日(木) 10:00 12:00 ポプラ教室 (笠松記)

出席者: 長野、東尾、中西、笠松 会費: 500円

10:00~10:30 スタジオで離れてマットを敷き 窓は全開 心地よいそよ風とウグイス たちのど自慢を聞きながら、日本の座禅が基となっている精神と肉体を感じる 多恵さんのマインドフルネス体操でリラ~ックス リラ~ックス... FWWW ~~~やっぱり人も音も声もリアルはいいなあ。  
資料(3枚)を見ながらお読みください。

10:30~ 資料1参照【まず、これまでの4年間を振り返り、確認したい共有事項。】  
資料1-(1)  
思い起こせば、2012に劇場法ができ、  
ちょうど津市の文化政策ビジョンを持つために市民参画の要請があった。  
...というのはとても特殊なケース。頭ではわかってるつもりだった。

森の劇場プロジェクトは、その要請がなければ生まれていなかった活動で、それはどこかで必要性を感じていても到底行動には直結しない  
(一般的に社会や地域の役に立ちたい気持ちは多くの人が持っていて、行動には結びつかない)、ということを改めて思った。  
何事も 実感するということがなかなか難しい経験だ、と実感した。(苦笑) 貴重。

今回、委託事業がリセットされたことで、委託がなくなったらやめる方がいいのか? できないのか? に直面し、それらは関係ないと判断できることは、継続の内容が実際にあるからで、今後もあったほうがいいと感じるから、といった単純なことながら、とてもよい振り返り時期となると思う。

#### 資料1-(2) [3]

白山総合文化センターは  
コロナのガイドラインに則って 芸術祭をする場所としてとらえたい。  
12月4.5.6日で、6日(日)本番。  
不安や鬱屈をだれもが抱えている今こそ、社会包摂機能を考え  
この年に必要な「まつり場」としての舞台を可能なスタイルで開催できたらよいと思う。  
資料より、2016年事業計画もヒントになる。

資料2

① 今、今から地域での生活に必要で長持ちよそうな「プロ市民像」  
2020の活動力の中に「プロフェッショナル市民」を考える場を盛り込んでいきたい。

【メンバーの意向】社会の中の人々に足りないもの、反対に気持ちいいプロ市民像

● 森劇 2016年 ●  
＜4/20 説明会資料から＞  
● 1/24の瞳をもつ市民  
24人のうち1人(約18/W)  
自分と身内以外に目を向けて  
居場所を通して社会貢献!  
やり方をやりかたから考えたい。

● 森劇 2017年 ● (里山学校はじまりの年)  
＜7/24 津市文化創造事業の勉強会：講師/中川幾郎＞  
● 一人ひとりが、やや広く社会を見渡せるようになる  
仲間と意見を交わし、自身に問い、自分の  
言葉で表現できるように「あえていく練習」  
できる活動力。

● 森劇 2018年のまとめから ● (劇場は改修でつ  
● 大人者、不気味赤子元心者也  
(孟子: 池巻 離婁章句)  
● いいことをうんとしよう。  
みんながみんなが愉快に生きよう  
(市内活三、五月のように)  
● 活動しながら実感、共有したこと。

● 森劇 2019年のまとめから ● (不安定に不安と  
● 「一人ひとりが、コアな思考をもって  
全身で感じることをし、考えついで  
勇気をもって伝える。」この辺りの活動だ。  
※小まにこまに新しい自然体の自分に  
出会えたいとばかり(糸内得)でいる。  
これに仲間がいるから実感できること。  
「人間力の再成」を活動を通して自分で  
行うことにはなろう。

● 森劇 2020年 キーワード ● (初心にもって  
● プロフェッショナル市民にしよう  
※ プロ = フロント = 前、フェス = 語る  
前に向かって語る、言葉に責任をもつ人、  
まずは、声を出して行動するということ。  
感度良好な意識と保つ努力が  
できることを考えたい。 = 意識をもつには何かやるということ。  
● 他のキーワード: トライ＆エラー、PDCFA 循環

メンバーからの意見①  
いろいろのことを  
想像力と慮ること  
前提として  
自分の住んでるまちが好き

② The Overstory という本を  
書いた。人間の知恵の価値が「風にそよぶ木にも及ばない  
こと」がわかること。喜び... といった内容が、より「リベラド・パワー」さながら。  
そのことを事実として伝えるということはない。  
たよりになるのは「謙遜」と「観察」だけ。といったところであ  
る。重なることある... と思いました。

メンバーからの意見②  
足りない: 考えるチカラ  
気持ちいい: 楽しんでいる / 人の噂をひか(近)にはらか  
好きなモノ・コトへの探究心 / 人が「善い」  
ことが好き

③ 養老孟司さんのブログに  
自分で考えて動かせる力  
↓  
身に付けるのは外に出ること  
↓  
思い通りに行かない... 考えて動かせる力になる。  
考えることに伴う活動力が、少し外の役目を果たしたい。

メンバーからの意見③  
他人の意見も聞き取り、自分で考え、感じて  
りんと発言する、行動力がある。

雑談... 協議

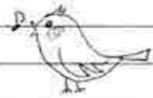
- 資料2の左、森劇 2017年の津市文化創造事業の内容に加えて。講師:中川幾郎氏語録
- ① 「市民」とはなんぞや  
寝に帰るだけの市民→寝民(シンミン)  
何もしない市民→死民(シミン)  
・近所に10人気軽に声をかけられる人はいるか?  
・地域の活動に参加しているか?  
・ボランティア又は、役員になった経験はあるか?
- ② その勉強会での森劇活動の評価  
文化・芸術の公共性を見地から、森劇の活動は、「文化」「福祉」「環境」「教育」といった  
分野に広く役割を担っている。=単発的な娯楽の提供ではなく、社会包摂事業となっている。  
(見失わないようにしたい)
- 資料2 右側 ディスカッション  
「社会の中のオトナ像に足りないもの、反対に気持ちいいプロ市民像は?」
- (1) 近所のおじさんが台風のと誰に言われるでもなく集会所を片付けていた。  
どうしても人は自分の視点で考えてしまう。少し想像力を働かせて見返りを求める  
でもなく、自慢するでもなく 自然にまわりを慮(おもんばか)ることができる人は  
素敵やなと思う。皆がそういう気持ちを持てば気持ちいい社会になる。
- (2) 人間社会でいうと自分中心、地球規模でいうと人間中心、、、万人が無意識に。  
そこに目を向け、日常の中に組み込まれた慮る気持ち、余裕のようなものが  
そこから出てきたらいいよね。そんなことに会える活動になればいいよね。
- (3、メンバーからの意見②に関して)  
考えなくなってるのは、便利すぎるからではないか?  
故意的に考える機会を持たなければいけない時代なのかも。  
森劇の活動が資料の養老孟司さんの言葉の「外」の役目を果たしたいなあ。
- (4) この活動を始めてからトップに立って活動している人に会う機会があり、  
最近気づいたことはみんな生まれながらの津市民ではないということ。  
三重県民、津市民って、思っても行動に移さない、感じてはいるけど表に出さない  
県民性、市民性が強いなと思う。生まれ、土地柄で変わってくるというのは面白いな  
と思う。思ったことをちゃんと口にするとか、行動するということが  
特にこれからは大切なんだと思う。
- (5) 現時点では地域貢献活動というのは、おかしいよねとかこうなったらいいよねと  
いうのがどんどん高まっていて、市の委託事業や助成事業を入札などで  
とっていきというのが普通なのだと理解した(遅いけれど)。  
けれど今後、仕事ではなく楽しさや喜びとして社会に貢献できる活動を  
地域の中に多く持っているかどうか?は、地方自治体として困難をしながら  
乗り越えていく地域となる重要なポイントとなると思う。  
それを行政は育て活用する責任を持つべきだと思うし、この森劇の活動自体が  
楽しみながら社会貢献もできる「プロ市民」になっていく練習の場にしていきたい。  
事実やっているうちに市民は育っている。
- (6) 最近転職した。転職サイトにエントリーをしておく企業の方からオファーが来る。  
一律の学力テストと性格判定(200問)あり。自分なりのアイデアをプレゼンしてみた。  
採用となった。皆拍手! 今どきの転職活動に驚き。  
↑自分を自分でアピールする機会も与えられず、  
一律のテストの評価のみで選択されるようになったら.....怖いね。

<長野>  
今年、一人ひとりの、気持ちいいプロ市民を考えたり振り返ったり意見交換する場になっていきたい。  
そして、プロ市民が増えるとどんな良い社会になるのか? それは多くの人のどんな気持ちよさにつな  
がるのか?共有できるようなスタディーの時間を持ちたいと思います。

② 2020年 年間活動計画について

資料3

人間の考える日常は、人間が保障できるものではありません!とわかりやすく示してくれたともいえる新型コロナウイルス。  
笑顔よりお金、山の命より人間の命と叫ぶに、地味な社会の流れと劇現場を活用して見直そうと始めた森劇プロジェクトは、改めて揺られ振られるから、一人ひとりが描くプロジェクトを、活動を通して複数と確認し合おう。身につけていく方向へ一歩目を歩きはじめると、意味があると思います。



◎ 森劇スタディー

◎ 子ども里山せうせう学校

◎ 子ども里山せうせう学校専科

◎ 大人も里山せうせう学校

◎ 芸術特撮

◎ アトリエ4

◎ モンブランラボ

11:30～ 資料3 参照【2020年 年間活動計画について】  
自分の価値観に触れる、しゃべれる場所を持つことは大切。  
森劇スタディーは社会的な井戸端会議として始まった。  
いろいろな情報を意見交換できる場所が必要。これが森劇の土台。

今年は、今までできなかったこと  
(例えばスタディーは、自分たちが楽しめることや、誰かの提案を共に経験したい、……、  
と言い続け実現していない部分など)を、一つでも試しながら、トライ&エラーと  
PDCFAサイクル(\*2)を意識して良い時間をつくり出したいと思います。

今日の、内容を踏まえて、まずはリーダー会で年間活動計画を提案したいと思います。

12:00～ 再度、身体整え体操をして、解散。ありがとうございました。

\*2:PDCFA (Plan,Do,Check,Feedback, Action) 既に自然循環が循環がおきています。